

平成23年4月5日
和歌山県立医科大学臨床研修説明会

リハビリテーション科 研修のお誘い

和歌山県立医科大学リハビリテーション科
田島文博

医師過剰時代における医師像

スペシャリティーを極める

プライマリーを修得する

プライマリーケアを学べ、
スペシャリティーを得る。

それが、リハビリテーション科です

現在の医療は「命を救う」だけではなく、
如何に患者さんに
「健康」に「元気」に
なってもらうかが課題
です。

さらに、将来どの診療科に進んでも、
リハビリテーションは必要です。

例えば、

運動器リハ、脳リハ、心臓リハ、呼吸リハ、
小児リハ、癌リハ、嚥下リハ etc

運動療法として

糖尿病、腎疾患、高脂血症、高血圧症

精神機能でも

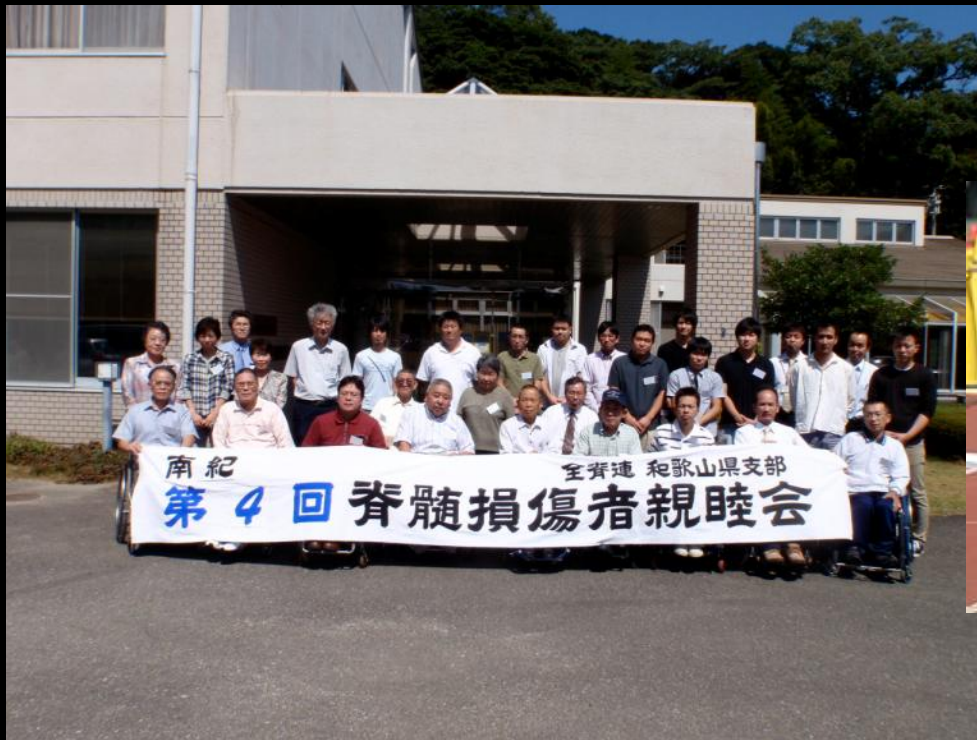
失語症、高次脳機能、精神疾患

全人的総合診療科

- これが、リハビリテーションです。
- 例えば、頸髄損傷の患者さん
- 四肢麻痺がある
- 呼吸障害、神経因性膀胱、排便障害、起立性低血圧がある。
- 果たして、どの診療科がみるのか？

人間総合診療科

- この脊髄損傷の方々は、麻痺は治りませんでした。
- しかし、車いすにのり、立派に社会復帰を果たし、家庭を持ち、スポーツを楽しみ、人生を謳歌しています。
- この医学的サポートは我々の仕事です。



近代的な生産ラインが多くの障害者に働く機会をつくっています
Modern production line in the factories
and many disabled workers.

プライマリー医療としてのリハ

- リハ医はプライマリーの出来る医師として僻地医療でも重宝されます。
- 那智勝浦町立温泉病院を復活させました。



スペシャリティー

- 関西でリハ科の教室がある公的大学医学部は本学だけです。
- 関西中すべての病院での勤務が可能です。
- 大阪市大、大阪医大、関西医大、すべて関連病院です。



高度先進医療でも

当科で行っている先進的リハの一例

1. 心臓移植後のリハ
2. 障害者スポーツ
3. トップアスリートのリハ
4. マイオカインを活用したリハ

そして、再生医学的には、

「神経幹細胞移植後のリハ」
にも那智勝浦で取り組んでいます。

動画をご覧下さい
(すみません。まだ公表できません)

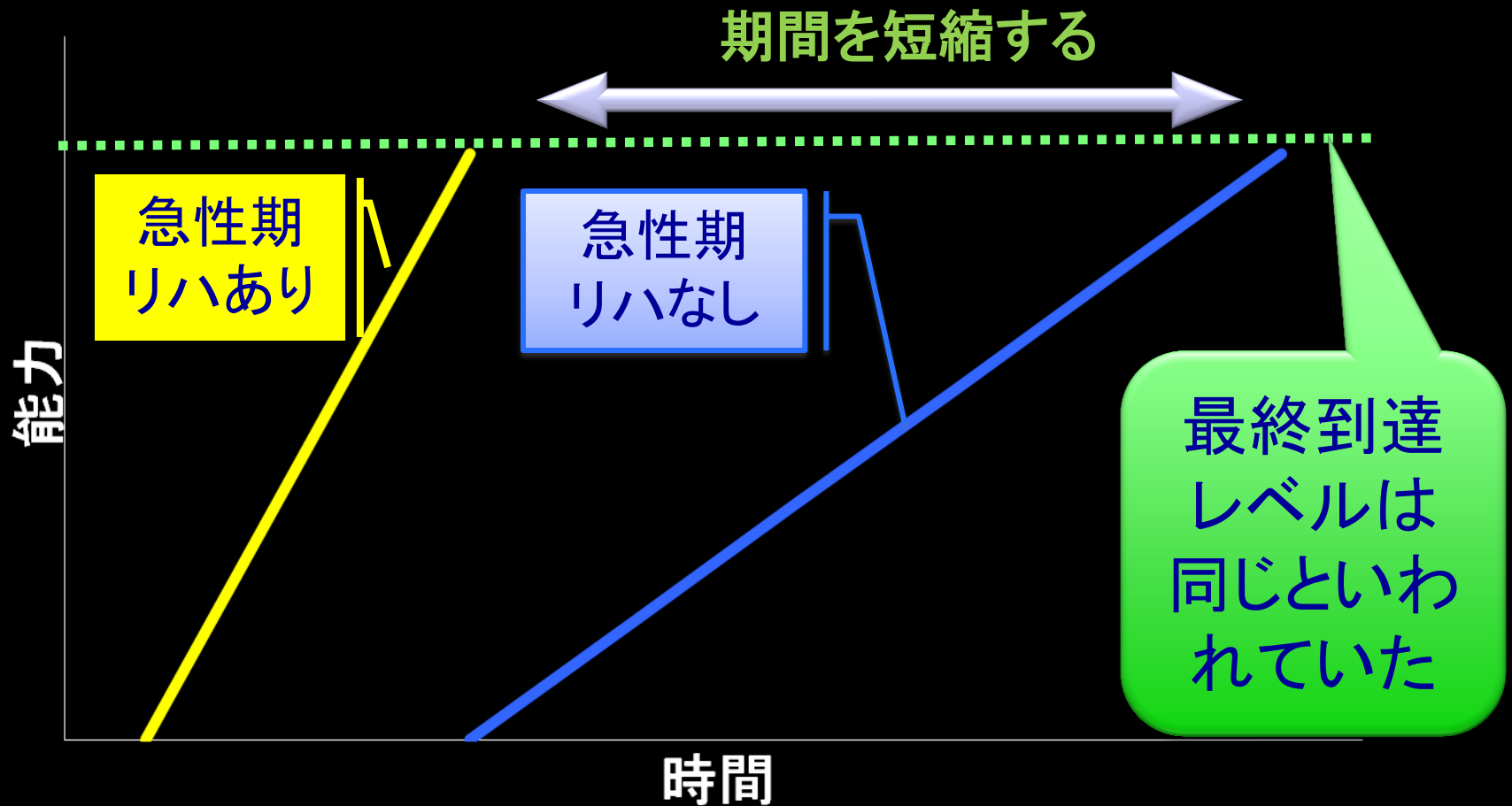
基本は「Whole body」

- 我々は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士ではありません。
- 個々のリハビリテーションの「手技」を修得する必要はありません。
- 医師として患者さんを全体で理解することが重要です。
- プライマリーと一緒にです。
- その上で、リハビリテーションの基本を理解すれば良いのです。

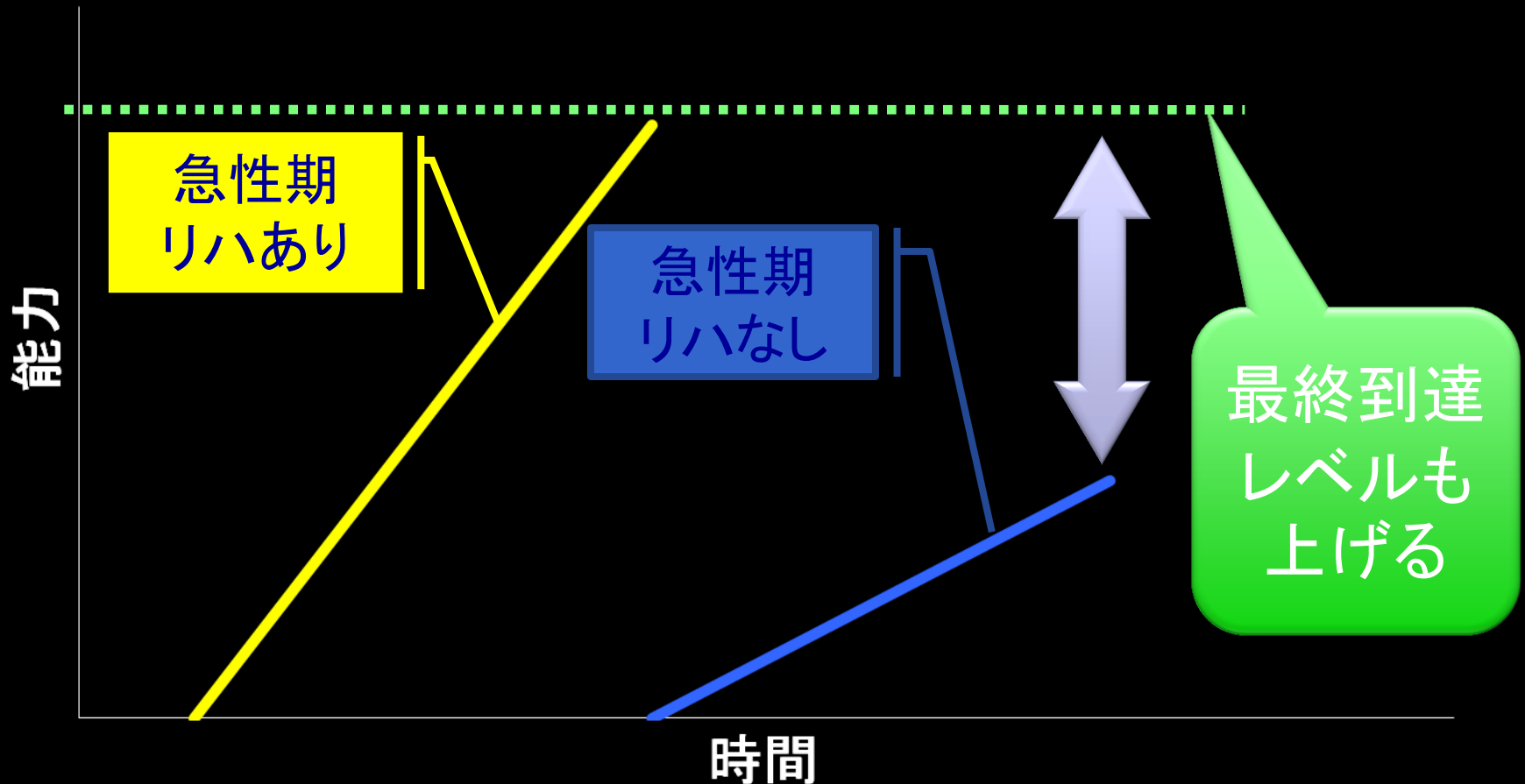
以上の事実を踏まえての結論

これからの医師に
リハの知識は必須

これまでのリハの効果概念図

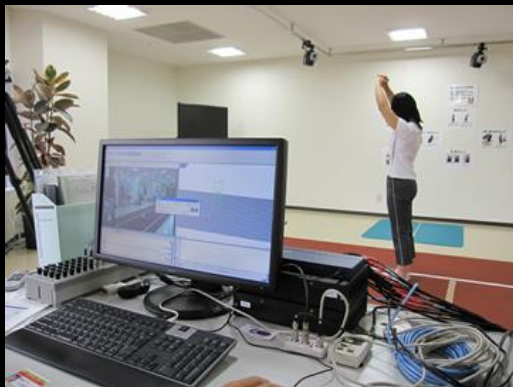


最近の研究結果概念図



急性期リハをしっかりとしないと訴訟される可能性もある。

スポーツリハビリテーションも積極的に行っています。 (文部科学省先端科学研究施設認定)



この程度のことは
すでに常識です。

この常識を本学リハで研修して下さい。

もう一度言います。

患者さんを単なる臓器の集合体ではなく、一人の個として診る。

医学的にはWhole Bodyの観点。

人格的、家族的、社会的背景も
考慮する。

それがリハビリテーション医療です。

君たちの長い医師人生のうち

1-2ヶ月でもリハ科で研修
することはかけがえのない
貴重な宝になります。

もちろんリハビリテーション医学は

医師人生をかけて取り組
む価値があります。

ご清聴ありがとうございました。



和歌山県立医科大学リハビリテーション科
田島文博